

学校感染症の出席停止期間の基準 (幼稚園小中学校用)

総社市 吉備医師会 R5年版

疾患名	潜伏期間	感染可能期間	主要症状	出席停止期間の基準	備考
第1種 エボラ出血熱、クリミアコンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器感染症（SARS コロナウイルスによるものに限る）、鳥インフルエンザ（H5N1に限る）				感染源となりうる間は原則入院、治癒するまで出席停止	
第2種 インフルエンザ	1～2日	発症後約3日は感染力が強い	発熱、全身倦怠、関節痛、筋肉痛、咽頭痛、咳、鼻汁	発症後（症状が出て）5日、かつ解熱後2日（幼稚園は3日）を経過するまで	
新型コロナウイルス感染症	約5日間 (最長14日間)	発症の2日前～発症後7日～10日	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常	発症後5日を経過し、かつ症状が軽快した後1日を経過するまで	
百日咳	6～15日		最初風邪のような咳、その後発作性の咳込みを反復		
麻疹（はしか）	10～12日	発症後約3週間（治療で短縮）	最初2～3日かぜ症状、発熱。その後さらに高熱、発疹が広がる	特有の咳が消失するまで、または5日間の抗菌剤による治療終了まで 解熱後3日を経過するまで	(医師により保健所への届け出が必要)
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	2～3週間	症状（発熱、咳）が出現する1日前から発疹出現後4～5日	耳下腺腫脹、発熱	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が出て5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	
風疹（三日はしか）	2～3週間	発症数日前～症状消退まで	発熱と同時に発疹、リンパ節腫脹	発疹が消失するまで	(医師により保健所への届け出が必要)
水痘（水ぼうそう）	11～20日 (多くは14～16日)	発疹出現数日前～後5～7日	腹部、背中から全身に広がる丘疹が水疱、痂皮へと変化する	すべての発疹が痂皮化するまで	
咽頭結膜熱（プール熱） (アデノウイルス感染症)	5～7日	水疱出現前1日～後6日	発熱、咽頭痛、眼球充血、眼脂	主要症状が消退した後2日を経過するまで	
結核	1ヶ月～数年	発症数日前～後約5日	咳、発熱、全身倦怠	感染のおそれなくなるまで	(医師により保健所への届け出が必要)
髄膜炎菌性髄膜炎	2～4日		高熱、吐き気、項部硬直（首が硬い）、精神症状	感染のおそれなくなるまで	(医師により保健所への届け出が必要)
第3種 コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフス				医師が感染のおそれがないと認めるまで	
腸管出血性大腸菌感染症	2～14日	多くは数日内	水様性下痢、血便、腹痛、発熱	有症状者は医師が感染のおそれがないと認めるまでは出席停止（無症状保菌者は登校可能）	(ベロ毒素陽性者は医師により保健所への届け出が必要)
流行性角結膜炎	1～2週間	発症後約2週間	眼球充血、眼瞼腫脹、眼脂	医師が感染のおそれがないと認めるまで	
急性出血性結膜炎	1～2日	発症後約1週間	流涙、眼球充血、眼瞼腫脹	医師が感染のおそれがないと認めるまで	
その他の感染症					
<u>条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる疾患</u>					
溶連菌感染症	2～4日	咽頭に溶連菌が存在する間	発熱、咽頭痛、莓舌、全身の発疹	抗生物質治療開始後24時間を経て全身状態がよければ登校可能 長くても初診日と翌日を出席停止にすればよい	
ウイルス性肝炎	A型2～6週 BC型1～6ヶ月	A型、発症後1～2ヶ月 BC型、不定（キャリア化あり）	発熱、全身倦怠感、悪心、嘔吐、右季肋部痛、黄疸	A型肝炎は肝機能が正常化すれば登校可能 B,C型肝炎の無症状病原体保有者（キャリア）は登校可能	
流行性嘔吐下痢症	1～数日	原因ウイルス、細菌による	嘔吐、下痢、腹痛、発熱	流行拡大のおそれがある場合のみ出席停止扱いとする (下痢、嘔吐症状の回復後、全身状態がよい者は登校可能)	
<u>通常出席停止の措置は必要ないと考えられる疾患</u>					
伝染性紅斑（りんご病）	10～20日	感染後1週～10日 紅斑出現時には感染力はほとんどない	かぜ症状の約1週間後、両頬の紅斑。四肢、体幹にも広がることあり	発疹期には感染力はほとんどなく登校可能	
手足口病	3～5日	急性期（ウイルス排泄は2～4週間）	手足口に丘疹、水疱、口内疹、口内痛	症状の安定した者は登校可能 (発熱期や口内痛のため摂食できない期間は休む)	
ヘルパンギーナ	2～4日	発症前日～数日が感染力が強い (ウイルス排泄は2～4週間)	発熱、咽頭痛、咽頭に水疱	同上	
マイコプラズマ感染症	2～3週間	2週間前後	頑固で長期にわたる咳、発熱	症状が改善し、全身状態のよい者は登校可能	
頭しらみ		成虫がいるとき	頭髮に虫卵が付着、頭のかゆみ		
水いぼ（伝染性軟属腫）	2週間～6ヶ月		粟粒大から小豆大の小さいいぼ		
伝染性膿痂疹（とびひ）	2～10日	水疱、びらん面がある間	皮膚に水疱ができ、破れてびらん面をつくる		ガーゼで覆い接触感染を防ぐ